

みずほ未来プロジェクト

みずほ未来プロジェクトとは、市内の中学生が瑞穂市の10年後のよりよい未来を思い描く中で、「こんなまちにしたい」という願いや「自分には何ができるのか」を考え、社会の一員であるという自覚をもつことを目指しています。各中学校の1年生がテーマに沿った探究を進め、2月12日(木)には探究して得た内容について発表を行いました。



穂積中学校

テーマ **ごみ問題・公共施設の有効活用・食文化**



市内ごみ拾い活動

実際に外に出て、ごみ拾いを行い、市内のどのような場所にどれくらいの種類や量のごみが捨てられているかを理解できた。



幼児施設訪問

幼児施設に中学生が積極的に関われば、活気あふれる瑞穂市にできると考え、幼児向けポスターを作成したり、施設に訪問し、幼児向けに読み聞かせを行ったりした。



調理員のお話

瑞穂市の食をPRしたいと考え、地産地消を目的とした、給食メニューを考案したり、家庭でできる料理を作ったり、給食センターの調理員に給食に関する話を聞いた。

穂積北中学校

テーマ **福祉**



市社会福祉協議会の講話

福祉には高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉など、さまざまな種類があることが分かった。



市職員の講話

「福祉」について、市役所職員から市の取り組みに関する話を聞き、自分たちで追究したいテーマについて考えを深めることができた。



瑞穂市探検

瑞穂市の身近な施設は福祉についてどのような取り組みを行っているのか、自分たちの目で確かめたり、施設の職員からお話を伺ったりして学びを深めることができた。



自宅の危険性

自室やリビングの見取り図を作成し、地震発生直後の危険性をあげ、自分や家族ですぐにできる地震への対策を考えることができた。



避難所生活について

避難所の生活では「生存に不可欠なライフライン」「避難所での体調管理」「プライバシーが確保された生活」「衛生的な生活」を考える必要があることが分かった。



「困り感」を解決する手作り防災グッズを作成し、学級の仲間や授業参観で保護者に調べ学習の成果を発表することで、情報発信できた。

あったかい言葉かけ県民運動

互いに「あったかい言葉」をかけ合い、思いやりあふれるあったかい関係を地域社会において創り出せば、いじめを未然に防ぐことができると考え、岐阜県の県民運動として実施しています。自分がかけてもらったうれしかった言葉、やる気や勇気が湧いてきた言葉、感動した言葉を市内で募集しましたので、一部紹介します。



「おはよう」のバトンタッチ

私の学校では、毎朝ボランティアのかたが「おはよう」と元気に声をかけてくれます。私は、寒い冬の日でもあいさつをしてくれると心がじんわり、ほかほか温まる気がします。だから、ボランティアのみなさんに私も感謝をこめて「おはようございます」と返すようにしています。おはようのバトンタッチこれからも続けていきたいです。

西小学校6年 田下 まどかさん

まほうの言葉

選挙に立候補した時、「立候補するの?がんばれ!」中体連の後「これからがんばってね」私は先輩方にたくさんの「がんばれ」の言葉をもらいました。この言葉はまほうの言葉で、言われただけで「よし、がんばろう」という気持ちにさせてくれます。だから今度は私の番です。今がんばっている人、何かに挑戦している人みんなに「がんばれ!!」

巢南中学校1年 白井 蒼莉さん